



山口県本部版

NO 309

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

山口県本部

〒754-0004

山口市小郡金堀町

21番の1

林洋武方

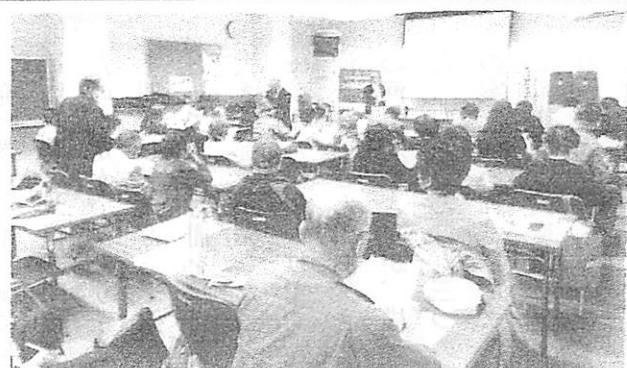
電話 &amp; FAX

083(972)3987

## 田中サガヨ没後89周年記念集会 5月12日

【写真上】下関市豊田町正念寺の田中家の墓前祭。田中サガヨの親族9名をはじめ50名が参加。

【写真下】墓前祭のあと生涯学習センターで学習会。  
国賠同盟県本部と下関支部・山口支部共催で  
行われました。



◆ 5月12日の学習会。講師は土井が浜遺跡人類学ミュージアム館長松下孝幸氏。「土井が浜遺跡から日本人のルーツと未来が見える、未来を創る」と題して講演されました。

◆ 5月15日、今年度の国会請願が行われ、山口県代表として前下関市議の江原満寿男氏が参加。署名は374筆集まりました。

- ◆ 6月19日～20日、国賠同盟県本部の第41回全国大会が開かれます。山口県から大田智美事務局長が参加します。
- ◆ 6月25日、国賠同盟県本部の6月度役員会議を13時30分から共産党県委員会で開きます。
- ◆ 6月30日、第69回山口県母親大会が山陽小野田市で開かれます。国賠同盟は会場入り口で署名行動します。行動へのご協力をお願ひします。

# 今も生きている河上肇の足跡

その3

河上肇記念会全国世話人 加藤碩(ひろし)

ところがその後、「無我の愛」の運動が、「にせもの」らしいということがだんだん判つてくる。本人も気付きはじめる訳です。

わずか数カ月で気付くんですよ。お話ししましたように、すでに五つもの要職を辞任して、突き進んだ道です。ところが「ああ、やはり間違いだつたのか」と気付くとまっしぐらに元にもどる、ということをかなり平然とやってのけました。自分が道を踏み外していたのだから戻るのは、当然だと言わぬばかりにです。

『自叙伝』を読み進みますと、こんな個所がいくらもあります。人間如何に生きるべきかという河上肇ならではの徹底的な探求がすすめられていくのです。

日本におけるマルクス経済学を他の人々に先駆けて一定のレベルにまで、大きく引き上げたという点に河上肇の功績があります。

発行数は六十三刷に及び、一刷で当時どれほど印刷されていましたのか定かではありませんが、千冊として六万三千冊、二千冊として十二万冊を超えるという大きな部数が売れた。大ロング・セラーだったわけです。装丁は、年三月一日付で、京都の弘文堂から初版が発刊されています。

私も高校生の時代に読みました。この『貧乏物語』は、大阪朝日新聞に連載されたもので、連載が完結してから一冊の単行本として出版されました。当時、河上肇の立論を進めています。テ

## 貧乏物語

著者 河上肇



132 雜誌文庫  
貧乏物語

うです。

自身これほどまとまったものはない、自分のこれまででの最上の著作だと考えていたようになります。

いま私たちは、貧富の差の原因を階級社会における搾取と収奪という問題を基本に解くわけですが、河上の立論はきわめて簡単・明瞭で、三点からなっています。

第一は、富者つまり金持ちが、奢侈(ぜいたく)をやめること。二番目は、なんらかの方法で、社会一般人の所得の差を等しくすること。差をなくすこと。これはきわめて空想的ですが、その通りなんですね。問題は、この「なんらかの方法」というのも肇氏は大変気に入つて、本の案を描かれたんですが、三つとも肇氏は大変気に入つて、本の内容は変わらないで、表紙は

三通りあるということだったよしかし提案はまさにそのとおり

です。

三番目には、社会改造だと。

このあたりが、革命的な方向に

発展していく突端なんです。

戦前の日本・明治憲法の体系

では、軍備と教育は国家的な事業として、国が明確な方針をもつてゐるわけです。軍事面では、

「富國強兵」のスローガンで、國が官営で起こした企業を三菱や川崎など民間に払い下げて、軍艦や飛行機や大砲をドンドン作らせて、軍備増強に努めた。

教育の方は「教育勅語」にも見

られるように、「お国のため」「天皇陛下のため」という目標で、人づくりを國家主導でおし進め

た。つまり軍備と教育は、統制的な基本方針を國自身がもつて、強力にすすめていきました。

河上の当時の主張は、経済についても、軍備や教育と同じようく国家が計画を持ち管理をして、自由放任にまかせないでや

つたら、金持ちと貧乏人の差がなくなるはずだと考えた提案だつたわけですね。こういう角度で彼は、「貧乏物語」を描きました。

それはそうかもしれないが、あまりに空想的で、こんな主張でこの世から貧乏をなくせるのなら簡単だが、そうはいかないということが、今日のわれわれの常識ではわかります。

ところが河上肇の飽くなき探求の姿勢は、こんな主張では、貧乏がなくならないということが、自らの理論の発展によつて認識されると、これだけロング・セラーになつてまだドンドン売れている本を自らの意思で、出版社の意見もあまり聞かずに、

絶版にしてしまった。ここらあたりが、河上肇流というか、私は見事なものだと感服します。まさに正々堂々たるものなんですね。

河上肇の経済学の探求は、最初からマルクス経済学に取り付いて、そのいいところだけを適当に切り取つて自分の体系をつくりあげるといったやりかたはありませんで、徹底的に先行する学説を研究して、其の上にたつて自分の理論を組み立てる努力をしたということが、『自叙伝』で繰り返し語られています。いいところ取りは大嫌いだということを述べた後、「だから経済学を研究するについても、私は先ず、一般に行はれているブルジョア経済学にかぢりついた。そして、それが到底駄目だと見極めがつまでは、私は『資本論』など

だから『資本論』以前の様々法と同じだと思います。それが、絶版にしてしまった。ここらあたりが、河上肇流というか、私は見事なものだと感服します。まさに正々堂々たるものなんですね。

『経済学大綱』の後半部分です。この本は改編社から出版された経済学全集の第一巻にあたる本で、河上の著作が第一巻に収録・編修されているところに彼の当時の経済学界における高い位置を示していると思います。初版が昭和三年十月二十三日発行となっています。当時、京都帝大の経済学の教科書として使われていたようです。第一巻は大きく二つの部分からなつており、上篇が「資本家的社会の解剖」と題され『資本論』の一巻から三巻を丁寧に紹介しております。そして、下篇が「資本家的経済学の發展」と題したいわゆる経済学史となつています。(つづく)



大正13年5月の着装(45歳)

絶版にしてしまった。ここらあたりが、河上肇流というか、私は見事なものだと感服します。まさに正々堂々たるものなんですね。

河上肇の経済学の探求は、最初からマルクス経済学に取り付いて、そのいいところだけを適当に切り取つて自分の体系をつくりあげるといったやりかたはありませんで、徹底的に先行する学説を研究して、其の上にたつて自分の理論を組み立てる努力をしたということが、『自叙伝』で繰り返し語られています。いいところ取りは大嫌いだということを述べた後、「だから経済学を研究するについても、私は先ず、一般に行はれているブルジョア経済学にかぢりついた。そして、それが到底駄目だと見極めがつまでは、私は『資本論』など

だから『資本論』以前の様々法と同じだと思います。それが、絶版にしてしまった。ここらあたりが、河上肇流というか、私は見事なものだと感服します。まさに正々堂々たるものなんですね。

『経済学大綱』の後半部分です。この本は改編社から出版された経済学全集の第一巻にあたる本で、河上の著作が第一巻に収録・編修されているところに彼の当時の経済学界における高い位置を示していると思います。初版が昭和三年十月二十三日発行となっています。当時、京都帝大の経済学の教科書として使われていたようです。第一巻は大きく二つの部分からなつており、上篇が「資本家的社会の解剖」と題され『資本論』の一巻から三巻を丁寧に紹介しております。そして、下篇が「資本家的経済学の發展」と題したいわゆる経済学史となつています。(つづく)

## 私の戦争体験 北朝鮮の難民であつた頃（6）林洋武

収容所にソ連兵が襲つてきた マダムダバイ

収容所は順安駅の前にありました。順安駅は平壌の北20キロ5つめの駅でした。ソ連兵が続々と南下していきました。鉄道列車が平壌の入りきれずに順安で止まつたままになります。列車には貨車に込まれたソ連兵がいっぱい停車するなどつとおりてきます。町中にソ連兵があふれ恐怖が広がります。ソ連兵は第一線の戦闘部隊で服は泥だらけですが自動小銃あのマンドリン銃だけは新品で実弾入りです。収容所の保安隊もソ連軍が来るとどこかに姿を消し全くの無防備になります。ソ連兵たちは夜中には日本人の収容所に押しかけてきます。彼らは「マダムダバイ」（女をだせ）とマンドリン銃をふりまわします。日本人の男たちが時計やら宝石やら差し出し対応しますが収容所にはいつてくる兵隊を押しとどめることができませんでした。ある夜、気づかないうちに玄関口に入ってきた若い兵士が目の前にいた女性に襲いかからうとしました。自分の子を抱いて逃げようとすると小銃が火を噴きました。一瞬にしてその親子は絶命しました。その場にいた人たちは抗議の悲鳴を上げその兵士は何もしないで逃げていきました。日本人の間に言いしれぬ無力感がただよいました。50歳までの女性は頭を坊主にして収容所から

少し離れた場所に逃げ込むところを作りました。ソ連兵の襲撃は日本人だけでなく朝鮮人にも同様でした。それを取り締まるソ連の憲兵が配置されましたが、暴れるソ連兵を街中でピストルや小銃で殺傷しました。恐怖の状況が町中にも広がりました。ソ連軍をウラー（万歳）といつて迎えた朝鮮人もソ連軍に反発始めました。五木寛之という作家がおります。兄の典夫は平壌一中の五年生でしたが、彼は同じ中学校の三年生で父親は教師でした。彼の家は平壌の官舎でしたが、母親は病氣になり寝たきりの生活でした。そこへソ連兵が襲つてきました。彼らが帰った後、母親は布団ごと庭に放り出されていました。母親はそれ以後食事を一切取らず命をおとしましたとエッセイに書いています。ソ連兵のレイプ問題は、特に日本人収容所襲つたようですが、朝鮮人住民にも繰り返されました。ソ連軍は東ヨーロッパでドイツ軍と激戦を繰り広げましたがが東ヨーロッパに進撃したソ連軍も各所でレイプ事件を起しました。当時正式に抗議したのはユーゴスラビヤのチトー大統領だけでした。ソ連崩壊後ポーランドや東ドイツの人たちがそのひどさについて告発をしています。ウクライナでも戦争は力のない子供とお年寄り女性に悲劇はいつも激しく集中します。

戦争の悲劇が私たち順安の日本人に襲い始めました。  
(つづく)